

お茶うけ 第84話

『日本新聞博物館』その1

2000年10月、横浜に日本新聞博物館が開館しました。この博物館は、江戸時代からの新聞の歩みをたどる「歴史ゾーン」と、現代の新聞・通信社の活動を紹介する「現代ゾーン」を中心に構成され、さまざまな資料や装置を展示しています。

私は21世紀の年明けに、この博物館を訪れました。

1971年(明治34年)横浜毎日新聞が日本初の日刊紙を創刊すると、後を追うように各新聞社が日刊紙を創刊しました。新聞の発行部数が増えると、大量の新聞を印刷するため高性能の輪転機が必要になりました。輪転機で印刷する仕組みは、円筒形の版胴の表面に湾曲した活版(表面に印刷したい活字や写真が転写された鉛版)をかぶせ、これと相対する圧胴との間に紙を通して印刷するというものです。日本最初の新聞用輪転機は、1890年(明治23年)に輸入されたマリノ二型輪転機と言われますが、それを改良した国産機で、1936年(昭和11年)まで使われていたものが、博物館に展示されています。



新聞記事が活版になるまでの流れは、前半の組版工程と後半の製版工程に分けられます。記事原稿を編集して新聞紙面の形に記事を並べるまでが組版工程です。まず、記事原稿に従って、活字棚から活字を拾い(文選)、1行15文字ずつに棒組して文選箱に並べ(植字)、記事毎に纏めます(小組)。幾つかの小組み記事をニュース性を勘案して新聞紙面の形に割りつける大組み(編集・整理)をして組版が完了します。次の製版工程では、大組みを終えた組版に特殊な厚紙を押しつけて紙型(しけい)をとり、紙型を自動鉛版鑄造機にはめ込み、そこに熱い(Hot)溶けた鉛合金を流し込んで鉛版(活版)を作ります。この活版を輪転機の版胴に張りつけて新聞を印刷するのです。

紙型をとって用済みの組版は、ばらし(解版)で活字を活字棚に戻します。新しく必要になった活字や傷んだ活字は、活字母型に溶けた鉛を注いで鑄造し補充しました。

博物館には、文選作業の写真、大小の活字や新聞紙大の大組みの実物、さらに新聞配達人がはおった半纏(はんてん)や号外売りの鈴などが展示してありました。

私の父は、少年時代に新聞に関する仕事をしてきたことや、苦学して中学校に通ったことを、よく子供や孫たちに話してくれました。父の少年時代を思い起こさせる品物を見た機会に、今回は父の話をさせていただきます。

1900年(明治33年)に貧しい家に生まれた父は、1913年(大正2年)小学校を卒業すると直ぐに、名古屋の扶桑新聞南工場に就職しました。月給は3円でした。新聞購読料が月当たり50銭(朝日新聞社(大阪)で、きしめんが一杯2銭の時代)でした。父は、組版の現場で解版作業を受け持たされ、連日、うず高く積まれた活字を分類して活字棚にもどす作業を続けました。しかし、3か月もたつとこの単調な作業に耐えられなくなり、運良く新聞広告で見つけた名古屋新聞社(今の中日新聞社)の給仕に転職しました。月給は同じく3円でした。

新聞社の給仕は、使い走りをしたり、記者と一緒に事件現場へ行って記者の書いた原稿を社にとどけるなど、記者を手助けするのが仕事で、父は働きがいを感じて熱心に勤めました。しかし3年目のある日、先輩の記者から学問の大切さを諭されて、父は中学校に進学する決心をしました。当時、私立中学校の月謝は2円でした。

父は昼間中学校に通うために、新聞配達をすることにしました。当時新聞配達は請負制で、1軒配達すると月8銭の稼ぎになり、100軒受け持てば月に8円の収入になりました。父は給仕を辞め、新聞配達をしながら半年間予備校で受験勉強をして、1917年に17歳でキリスト教系の私立中学校の2年に編入しました。

入学後も朝の新聞配達を済ませてから学校に通いました。夕刊はありませんでしたが、月末の集金と購読者を開拓する「拡張」の仕事がありました。(注:1915年10月大阪朝日新聞が夕刊の発行を開始)

さらに、大事件で号外が発行されると電話で呼び出されて、社名入りの半纏をまとい、腰に鈴をつけて号外を配らなければなりません。号外のたびに授業を中座することを心配した校長先生の計らいで、父は授業の始業と終業の鐘を鳴らしたり講堂を掃除するなど学校の仕事をすることで、月に10円の奨学金を受けられることになり、新聞配達を辞めました。

父は、その後も苦学を重ねながら東京の専門学校で英語を学び、1928年(昭和3年)に母校の英語教師になり、長年にわたって生徒たちの教育に努めました。私は、父の少年時代の新聞配達などの話を聞くたびに、人生を切り開こうとする父のロマンと周囲の人の暖かい支援に、ほのぼのとした大正時代の空気を感じたものです。

以上

参考文献:

『日本新聞博物館 常設展 展示図録』

(財)日本新聞教育文化財団 編集・発行 2000年10月27日発行